

渋沢栄一の長崎高商（現・経済学部）での講話 大正3年5月4日（東洋日の出新聞紙面より）

● 澁澤男の講話

支那へ赴く途次昨朝寄港せる男爵澁澤栄一氏は長崎高等商業学校々々長事務取扱山内正昭氏の請を容れ昨日午前十時同校講堂に於て全校學生に對し約三十分の講演をなせるが六要を摘記すれば左の如し

此度の支那旅行に際し本校に立寄り而して第二の帝國民として帝國の實業を發達せしむる學生諸君に相會ふの機を得たるは予の衷心愉快とする處なり予は大分考案し爲に聲も立たず且つ著早々校長より講演を求められ爲に何等の準備なきも實業の發達進歩を心とせらるる諸君の心を心としてこゝに一場の講話を敢て試みんとす

今回遊行の目的は單に漫遊に止まる予の上海へ赴きしは前後二回のみ而して第一回は五十年前前にかゝり第二回亦四十年前に屬す加之上海には二回赴きたりとも支那内地の模様は毫も知らざるが故に是非とも老後の懐出一遊を思ひ立ちたる次第なり新聞紙上には予の支那旅行を目して利權獲得運動の爲なりなど掲げらるゝが決して爾るにあらず但だ昨年支那有力者と合辦の事業を企てたり始めは中國興業合社と稱し今は中日實業合社と改めたるがコハ昨年孫逸仙氏と予と組織せるものなれば漫遊の序を以て其目的を達すべく彼の地の實業家と會し又將來の爲に官途にある人とも多少談合せんと欲するものにて其他には目的無き也

予は今尚ほ必要なれど將來も益々商業教育の必要を感ずるものなり乃ち商業教育に注意を要すべき點について一言

せんて欲す予は種々の場合に於て之を云ふが予の若き時の教育は非常に備へし又頗る樂なりき而して維新以來教育の事物興せしと雖も并は政治教育を主とせり故に教育を受ける者は政治界に雄飛せむと欲する者のみにして實業界は依然文字を知らぬ人々によりて保たれたり斯の如くにして國家の富み且つ繁栄なるを望むを得べからず多額の富、多數の力を以て進へ其處に始めて真正に國家の發達を求め得べく現時土耳其又は墨西哥の狀態に鑑みて特に此感を深ふせずばあらず東京に於てすら高等商業学校の重要視さるゝに至れるは僅かに二十年來の間にして實業教育は社會より度外視されたるの觀ありき然るに明治三十八年本校の創立を見て又他地方にも實業教育の振興を見るに及べり併し乍ら商業教育が總ての點に於て行届けりとは考へられず東京神戸大阪長崎等に高等専門の學校あり其他甲乙二種の商業學校ありて其等の學校より年々多數社會に出づるに至れるも商業教育眞個に發達して昔時の憾みを一掃せりと未だ速かに斷すべからず一言以て之を蔽へば商業道德の堅固に成り行けるか否かは疑問なり

道徳は人道也誰人も之を爲さざるべからず政治にも軍事にも必要なれど時に商業に在りては最も罪惡に傾き易きが故に其必要や重大なる富は誰人に海はらず之を所有するを都合宜しとせず乃ち官業界にありては平穩感を受け易しと爲す、富めば仁ならず故人は云へり而してアリストートルも亦た總ての商業は罪惡也と極言せり富が總ての目的となり手段を選ばず之を行ふに至りて罪惡を侵さざるものは稀なり則ち實業に従事する者にありては商業道德の最も重要ななるを見る

大會社の支配人となり或は所謂成功を遂げたるものを羨望するの念は罪惡に陥るの徑路なり業界夫れ自身は大なる誘惑にして罪惡の淵也凡そ誘惑には他働と自働とあり而して業界は自から之れを受くる誘惑なり實業教育に精神教育の重且つ大なるは之れを以つても知る可きに非ず耶（未完）

● 澁澤男の講話

予は四十餘年來第一銀行に從事せり而して毫も移らず此間大いに進んで富を造りし人もあり又樞要の地位に達せし人もあり然るに依然として予は第一銀行に没頭せり乃ち此點より云へば予は奥下の舊阿蒙也然りと雖も予が始め實業界に志せしは堅き自信を有してのにて多少英佛其他諸外國の事情も知り居れば抱負を持ちて實業界に起ちたり斯の如くにして自身を發達せしめざりしも一方實業界はコノ四十年來異常の發達を來したり要するに當代の實業界は昔の如く十層樓を築くのみを學べる人にては之に當り得べからず世界を對手の商業は充分の素養を以てせば能はず而も物質的教育のみを享け精神的教育に缺けたる者にては到底世界的商業の舞臺には立ち能はず、予は明治十年及び三十一年並に三十三年の四回コノ長崎を見舞へり言ふ迄な長崎は三百年の長き歴史を貿易史上に有し居りて今日の發達は更に昔の繁榮にも優りつべし然れども精神的方面に幾許の發達有り耶は疑問也コノ單に長崎を指して云ふにはあらず此頃の如き不祥の事件各地に發生するについで予は深憂あり特に日本の中心たる東京に於て續々不祥の事件發生するは國民の一人として又實業界の一員として責任に甚くさるるもわが長崎は第二の國民として訴して帝國の完全なる發達を圖る爲一層精神的修養を積みて其大任を全ふせられむとを望む（終）

東洋日の出新聞は1902年（明治35年）に鈴木天眼によって長崎で創刊された新聞。

鈴木天眼についての本





澁澤男講演大要

此度私は支那の方へ参りますに就きまして其途次御當地に立寄り本校に参りまして多数の學生諸君と會するの誠愉快に感ずる所でございます。我實業界の將來の進歩發達と言ふことは誰しも希ふのでありまして特に我々はその希望が痛切であります。夫今日斯の如き良き學校に参りまして學生諸君に會し將來第二の國民として帝國の實業を興進する諸君であると思へば實に末頼もしく思ふのであります。極く暫時の確泊であり且つ私も大分老衰致しましたので聲もよく立たず咄嗟にお話も出来まいと思ひました。若し早々一場の話を願はれまして豫て自分も大に實業界の進歩發展を希うて居り且校長始め多數相識の御方も居られますので強ひて断るのも甚だ快くありませんので茲に参りました次第で御座います。今回の旅行は支那を漫遊するのみでありまして殊々しく別に取立て、御話することはありません。私が第一回目に行つてから既に五十年を経過し第二回目に行つてからも既に四十年になりますので支那の有様も餘程變つて居る事と思ひます殊に内地の事はよく存じませんので今度一遊を試みることを非常に喜ばしく思ふのであります。

然るに世間では私の今回の旅行を目して實業上の利権を布植する爲であるとか何とか種々の説をなす者がありますが決して左様なことはないものであります。實は彼地に或合名會社の實業組織が出来て居て以前は中國興業會社と言つたのが此頃中日實業會社となつて居ります。これは昨年孫逸仙氏が來られた時に共に組織に與つた縁故がありますので彼地に行つたら其設立と將來の發達に就て彼地の人に少し話したいと思ふに過ぎないのであります。それ故支那旅行については別に述べることはいないものであります。そこで今日は將來實業家たらんとせらるる諸君の御参考にもならんと思ふ事を一言述べて置きたいと思ひます。

度々種々の席で申述べる事ではありますが私共が若い時の實業教育は極く古く極く簡易なものであつたのであります。維新後は歐風を學んで稍新しい學問が輸入せられました。が主に政治方面にのみ傾いて實業界の人々は其時分には殆んど教育を受けない者のみであつたので御座います。然し此有様では到底國家は立つて行く事は出来なない昔の東洋的教育で所謂君主が英明にて善政を行ひ人民が帝の徳に依り其命に従ふて居れば足ると言ふのであればそれでよいのであるが歐洲の今日の有様はさうでは無くて一國民の多數の富が増さなくてはならぬのであるトルコやシヤム等の様に一部の國民が富んで他の者は奴隸視される様では決して富強の國たる事は出来ないのであります。君主政体の國であらうが共和政体の國であらうが斯る有様では決して健全なる發達をなす事は出来ぬのであります。そこで日本も之に鑑み先づ大に政治を興したのであるが政治の方面に傾いて實業の方面は餘り顧みなかつたのであります。漸く明治二十年頃に東京に實業教育らしいものを授ける學校が出来てそれ迄は日本の實業教育と言ふものは全く阻害せられて居たので御座います。

それから十数年の後東京高商と言ふ名になり、各地に商業教育の盛になりましたのは極く最近の事でございます。が未だ實業教育の總てが行き届いて居るとは言はれないと思ふのであります。今日で東京、神戸、大阪、御當地、山口等に高等の商業教育が施されつゝあり又甲乙種の商業學校が四十に近く又私立の分も随分少くない事と思ひますが如斯今日の盛大を致したのは大に喜ぶべき事であつて昔の怨が無くなつたと云うても宜しいのであります。然しながら如斯實業教育が進むにつれ注意しなければならぬのは智識の方面の教育と同時に精神の方面の修養を怠つてはならぬと言ふことでありまして一言で言ひますれば商業道德の基礎が丈夫とならねば堅實なる發達はむづかしいと云ふ事でありまして、學者軍人政治家たる間は是非道德は人道でありますから誰しも心得ねばならぬのであります。然し就中商業家の側に於て最も非道德に傾き易いそれは商業界に特に誘惑が多いからであります。尤も誘惑と言ふものは誰にもあるが實業家と最も關係が深い故に古い教にも儘か孟子の中であつたかと思ひますが「仁を爲せば則ち富ます、富めば則ち仁ならず」と言ふ意味の事があるし又歐羅巴の教にもアリストトールと言ふ人は「總ての

商業は罪惡なり」とまで喝破して居ります。富と言ふものは自分が得る事が第一の目的である、是が爲には如何なる手段をも選ばぬと言ふ事なれば非道德に陥り罪惡と迄極言せらるゝに至るのであります。如斯商業家と言ふものは非道德に陥り易いのであります。諸君は大に心すべき事であると思ひます。僅々四十年間を以て政治に軍事に實業に大に教育は盛となりました。が皆多くは物質的教育であつて幾分精神教育も加味せられては居りますが多く物質的に注入せられるからしてその方にのみ心が奔ると言ふことになる、以前一緒であつた仲間の人々で或人は支配人となり又或人は大なる富をなしたと言ふことでは多くなつた人がこれを羨望するその羨望が愈々大なる誘惑である、友達が悪い方面に誘惑するのは他人がする誘惑であるが羨望の爲に生ずる誘惑は自分から起す誘惑であつてその害最も甚しいものであります。それ故に如斯誘惑の多い實業界に立つて行かうとする人々は毅然として之に打ち克つて覺悟が無くてはならぬ、それだけなければ實業教育といふものは却て誘惑の教育となつて其眞の目的といふものは達し得られない事になります。

私は明治六年より實業界に入つて今年で四十二年になります。始めて第二銀行に従事し不肖ながら其時から首腦に居り今日でも頭取で居りましてお恥しい事には四十年間少しも變らないのであります。私は随分古い人間であります。が同時に私程日本の昔の有様を知つて居るものは無いと言ふも過言ではなからうと思ひます。その頃軍事は軍事に充てた人又教育に外交に各其人があつたのであります。然し實業界には其頃誰も居らな所謂世界を股にかける商業は發達する能はざる状態にあつたのであります。不肖私は海外に旅行し稍文明的商業を發達せしむる事が出来るかと思ひまして四十年間實業界に身を委ねて居たのであります。私一個としてはその間に少しも發達せず昔の儘で居りますが日本の實業界は昔の比ではなく實に驚くべく喜ぶべき状態に立到つて居るのであります。御當地には明治十年三十年三十年三十三年と参りましていつも前回は参りました時に比し發展して居るのを感じましたが今日には大なる發展を遂げて居る様に思ひます。長崎でも然うであります。他の都市に於ても大に發展せるものがあるものであります。然り

学友会雑誌 16号より

物質的にはその様に著しい發展を致して居るのであります。然るに精神的には如何之も亦共に進歩せり。断ずるには大に躊躇するのであります。これは何人も是認する處であらうと思ひます。これは國民として又實業界の人として由々敷き大事であると思ひます。

長い事を申せば限りがありませんが何卒今の學生諸君所謂第二の國民たる諸君は智識の點に於てのみならず精神の強固と言ふ事の切に大事なる事をお考へになつて此點に十分御注意あらん事を希望する次第であります。(大正三年五月四日於本校講堂文宣記者)